エイト日本技術開発　金　声漢氏

新社長 Interview

オンリーワン企業へ挑戦

エイト日本技術開発の新社長に金声漢氏が就いた。27年ぶりの社長交代、創業家一族以外では初めての社長就任となる。2009年の会社統合で当時の小谷裕司社長(現会長)と佐伯光昭副社長(故人)が誓い合った「オンリーワンの会社にする」ことを念頭に「2030年長期ビジョン実現への道筋をつけ、次の世代に良い形でバトンタッチしたい」と語る金社長に経営方針などについて聞いた。

――今後の事業展開、営業戦略は

「将来を見据えて、既存分野にとどまることなく、公共マネジメントやデジタルインフラソリューション、都市地域再生などの分野にも果敢にチャレンジして受注比率を高めていく。もう一つはプロポーザルの受注をもっと増やし、技術力で選ばれるオンリーワンの会社を目指していきたい」

――第5次中期経営計画の進捗(しんちょく)と次期中計の方向性は

「5次中計は、数字的には最終目標に近いものを昨年度時点で達成している。現中計の位置付けは、長期ビジョンで掲げる2030年の姿〝次世代創造企業〟の実現に向けた基盤整備だ。数値的にはめどが付いているので、残りの施策に注力したい。取り組みの例として一つ挙げると、社内のバリューチェーンの最適化を目指した新システムの部分稼働を今年6月から始めている。業務管理や財務会計、人財マネジメントなどの基本的なところからスタートしているが、今後ステップアップすることで経営陣の意思決定や現場の受注判断、間接業務を飛躍的に効率化させることを目指している」

「来年は次期中計を固める年になる。GX(グリーントランスフォーメーション)、DX(デジタルトランスフォーメーション)をはじめ、デジタル田園都市国家構想やスマートシティなどの分野にトライすることが柱となる。既存分野の強化も図りつつ、さらに飛躍するための計画としたい」

――海外展開は

「当社の子会社でEJEC Thailand(タイの現地法人)がある。これまでは民間の廃棄物をメインに展開し一定の成果を上げている。さらに伸ばしていくため、タイのインフラメンテナンスに参入していきたい。現地企業との提携やタイ国からの直接受注を目指し、EJホールディングスと連携しながら取り組みをスタートさせた。タイに力を入れつつ、次のステップとしてアフリカへの拡充に向け準備を進めたい」

――人材育成について

「長期ビジョンの達成には圧倒的に人が足りない。新卒採用は苦戦しているが、来年6月には東京本社の移転を予定しており、挽回の好機と捉えている。毎年30人以上の人材を継続して採用するとともに、即戦力の増加を見据えたキャリア人材の採用も重視したい。また、初の取り組みとしてインドの大学生を新卒採用した。ハイテク産業の中心地であるバンガロールの大学にはシビルエンジニア系の学生が多く、とても優秀だ。12月から大阪に配属される予定になっており、楽しみにしている」

＊　＊

(きん・せいかん)1987年3月名大大学院工学研究科修了後、同年4月日本技術開発(現エイト日本技術開発)に入社。2020年6月常務執行役員防災保全事業部長、同年8月取締役兼常務執行役員防災保全事業部長、同年8月取締役企画本部長、23年6月常務を経て、8月から現職。趣味は食べ歩き、ドライブ。愛知県出身、60歳。

記者の目

社長就任後の所信表明で「一緒に変わっていこう」と社員に呼び掛け、これまでの枠組みにとらわれず新しい取り組みにチャレンジしていくことを確認した。特に営業の役割について「会社を引っ張っていくのは営業職だ」と、取るべき仕事にこだわることへの重要性を強調し奮起を促したという。これまでの仕事のやり方からのマインドチェンジを求めた言葉には、「オンリーワン企業」を目指す強い意志がうかがえる。